



報道関係各位

東京藝術大学 取手校地の学食が地域に開かれた芸術創造拠点に 東京藝術大学・取手アートプロジェクト連携事業 藝大食堂（げいだいしょくどう）始動！



取手にある藝大の「学食」が、
地域に開かれた創造・交流拠点に生まれ変わります。
学食ですが、関わり方は食だけではありません。
多様な動植物を育む林や森のようにさまざまな個性が花開く、
多様な芸術、人びとの表現活動を育む場所としてエネルギーを蓄えています。

2018年5月28日よりいよいよ地域に向けてグランドオープン。
これからの展開に、ご期待ください！

ご取材申込・お問い合わせは下記までメールまたはお電話にてご連絡ください。

NPO 法人 取手アートプロジェクトオフィス

Email: habara@toride-ap.gr.jp

担当携帯：090-4087-8139 [羽原（はばら）]

〒300-1522 茨城県取手市高須 2156 TAKASU HOUSE

Tel: 0297-84-1874（火・金 13-17時）

東京藝術大学学生課課外支援係

Email: kagai@ml.geidai.ac.jp

担当係電話：050-5525-2068 [吉武（よしたけ）]

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

FAX：03-5685-7763

OMONMA TORIDE
藝大食堂
 GEIDAI SHOKUDō

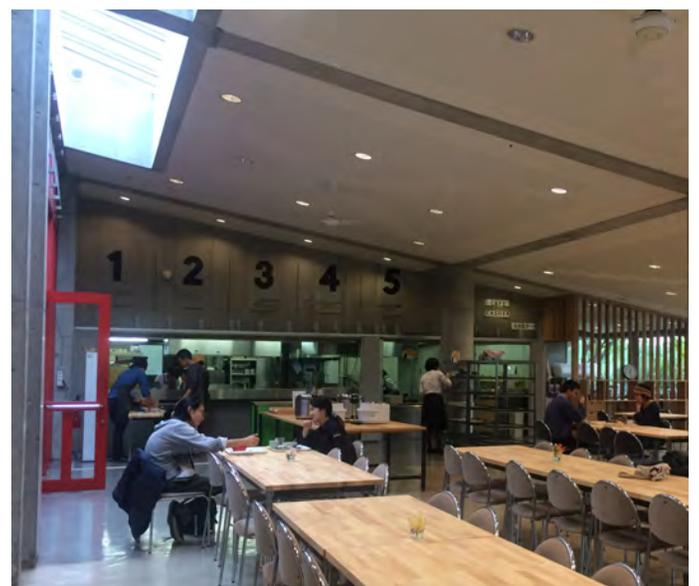
▶「藝大食堂」始動！ 学食を「芸術」・「農」・「食」を囲む創造の場に

茨城県取手市小文間に平成 3 年（1991 年）に開設された東京藝術大学取手校地。同キャンパス内にある福利厚生施設が、このたび東京藝術大学と NPO 法人 取手アートプロジェクトオフィスの連携により新たな芸術文化拠点として活動をスタートしました。

「藝大食堂」の特徴は、学食でありながら地域内外に開かれた芸術創造の拠点を目標していること。「芸術」と「食」・「農」を体感しながら、アーティストをはじめこの場所を訪れた多様な人びとが居合わせ、時に関わり合う空間になっていきます。



△2017/12/2-3 藝大食堂 × 風景と食設計室ホー「世界と私の手のひら食堂」パフォーマンスランチの様子



▶「藝大食堂」の機能とこれから展開するプロジェクト



「食」を囲む機能

「食」と「農」、そして「芸術」を通じた新しい体験

その土地土地の自然の営みと対峙してきたアーティストをディレクターに迎えてつくる藝大食堂。「食」と「農」、そして「芸術」が融合したこれまでに見たことのない風景への接点として地域に向けて開いていきます。「食」を表現のテーマに据えたアーティストをパートナーに、関わる人が体感しながら学び、世界を広げていくプログラムを展開していきます。

2018年度12月には食を取り入れた市民参加型演劇パフォーマンスも予定しています。

また、藝大食堂ではそれぞれの関わり方を選ぶことができます。ここで行われる表現活動に参加することはもちろん、食を友人と囲んで語らうことも、美味しいコーヒー片手にノマドワークの場所として使うことも、施設を囲む自然に触れることも。関わり方がさらに広がっていくことを目指していきます。

「生きること、つくること」につながる食

藝大食堂でお出ししている食事は、由来のわかる食材をつかい、手間を惜しまず人の手をかけることを基本にしています。自分の体をつくるものに自覚的になることが、自分自身のことや自分がおこなう表現や活動、まわりの環境や社会に対する捉え方を豊かにすることにつながると思っています。

流通しない野菜の発掘・活用と地産地消

地元で市場に出てこないけれどまだまだ食べられるハネ野菜を活用するためネットワークを開拓中。つながりある近隣の農家さんから協力いただく農産物が、芸術家の卵をはじめ、藝大食堂の食を支えます。そのため、夏は大量のナス、冬は大量のかぼちゃなど、藝大食堂には“即興的”旬のメニューが並ぶことがあります。

また食品ロスをなくすため、藝大食堂では創意工夫でリメイク食材を活用した手づくりサンドなど、積極的においしい軽食を開発しています。衛生管理にはもちろん配慮しています。



▶プロジェクト PROJECT

ショーケース

使われなくなった食品サンプルのディスプレイケースから生まれた、回遊型ギャラリー。小沢剛教授セレクションによる若手アーティストの展示が毎月行われています。また、展示に合わせたイベントも月に1回、食の提供とともにパフォーマンスやトークイベントなどを実施しています。

普段は藝大食堂のエントランスに設置されていますが、時折旅に出ます。



ギャラリー

以前は購買として活用されていたスペースがセルフリノベーションで展示空間になりました。

藝大生や取手ゆかりの作家の展示に活用されるほか、多様なジャンルの作品や表現活動、地域で進むプロジェクトなどを地域内外に向けて紹介・発信していきます。



藝大ファクトリーラボ × 藝大食堂連携プロジェクト

9つの専門工房群（金工工房金工機械室、金工工房鋳造室、金工工房金属表面処理室、木材造形工房、塗装造形工房、石材工房、ガラス造形工房、工芸科陶芸工房、染織工房・紙漉工房）専門工房群を有する藝大ファクトリーラボと事業連携したプロジェクトも展開していきます。



プロジェクトはこれから生まれる種もあり、藝大食堂の内外を舞台に複数の取組が並走していきます。藝大食堂で出会う人・ものから生まれるまだ見ぬおもしろい活動もあるかもしれません。プロジェクトの情報は藝大食堂ウェブサイトでお伝えしていきます。

▶ 運営体制

統括ディレクター：岩間賢（美術家・愛知県立芸術大学准教授）
プロジェクトディレクター：小野寺美穂（アートディレクター・デザイナー）
マネージャー：竹村麗良（東京藝術大学特任助手・油画技法材料専攻修了）
スタッフ：串田代志子、畑野弘美、小路口尚美、長谷川由香
事業受託者：特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス

▶ 施設沿革

平成3年10月	東京藝術大学の取手校地開設とともに福利厚生施設設置
～平成29年7月	民間業者委託により運営
平成29年8月～	NPO法人 取手アートプロジェクトオフィスに運営委託
平成29年10月	「藝大食堂」としてプレオープン期間スタート
平成30年5月28日	グランドオープン・地域に開いた形での一般利用ほか、プロジェクトの展開をスタート

▶ プロジェクトディレクター：岩間賢（いわま・さとし）



1974年千葉県生まれ。これまでに場と人との対話を生み出す作品を多数発表。東京藝術大学博士過程修了後、文化庁芸術家在外研修員として中国にて創作研究を行う。近年では、大地の芸術祭や中国ビエンナーレ他で国際的に活動。

2011年度より取手アートプロジェクトコアプログラム《半農半芸》のプロジェクトディレクター。畑での実験栽培や実際に体を動かしながら今自らが立っている土地のありようを確かめ、「生きること」「住まうこと」を考え続けるプロジェクトを展開。

ウェブサイト：www.oh-mame.com

▶ 取手アートプロジェクトについて

1999年にスタートした取手アートプロジェクト（TAP=Toride Art Project）は、市民と取手市、東京藝術大学の三者共同により、芸術のまちを目指す取手市をフィールドに、アーティストの活動支援、市民への芸術体験機会の提供を目的として活動を続けてきました。2010年に実施本部の事務局機能を担う特定非営利活動法人取手アートプロジェクトオフィスを設立し、地域や社会の変化に寄り添い形を変えていく通年型のアートプロジェクトに取り組んでいます。アーティストと地域に暮らす人々との関係を結びながら、郊外都市・取手における日常の中の創造性ある営み、芸術表現を通じた新しい価値観の創造、“創造郊外”取手の実現を目指して活動しています。

- コアプログラム ①〈アートのある団地〉②〈半農半芸〉 ※郊外の要素に特化したアートプロジェクト
- ベースプログラム こどもプログラム・環境整備・国際交流・中間支援・人材育成

▶ 取手アートプロジェクト《半農半芸》のこれまでの取組

コアプログラム《半農半芸》は10年かけて旅する活動としてスタート。自然の要素を表現の軸に据えたアーティストたちとともに衣食住の新しい価値を創る試みに取り組んでいます。

活動拠点「TAKASU HOUSE」や「藝大食堂」を中心に、農業や伝統技術を支える地域の方々と創作活動を行う表現者たちが協働し、土地の革新的な可能性を開く活動を展開しています。

本取組につきまして、ぜひご取材、掲載等を賜われますようご案内申し上げます。